

事後評価(案)

中国横断自動車道尾道松江線
(み三^と刀^や屋^き木^{すき}次 ~ 松江玉造)

事後評価の説明概要

1. 事業概要
2. 事業の効果(直接効果)
3. 事業の効果(間接効果)
4. 事業で配慮した事項
5. 評価結果及び対応方針(案)

1. 事業概要

中国横断自動車道尾道松江線の計画概要

中国横断自動車道尾道松江線は広島県尾道市を起点に広島県三次市を経由し島根県松江市に至る約137kmの高規格幹線道路である。

今回の評価対象区間である三刀屋木次^{みとやき}～松江玉造^{すき}間は一般国道9号のバイパスである松江道路、安来道路等と一体となって山陰地方の自動車専用道路ネットワークの一部を担い、地域経済の活性化、地域の交流拡大に大きく貢献することが期待されている。



凡例		
高速自動車国道	一般国道自動車専用道路	高速自動車国道に並行する自動車専用道路
— 供用区間	— 供用区間	— 供用区間
— 整備計画区間	— 事業区間	— 事業区間
— 整備計画区間(直轄)	— 計画区間	— 事業区間
— 基本計画区間		
— 予定路線区間		

事業の概要



事業の概要

事業期間

計 画： 8 年 3 ヶ月

実 績： 9 年 3 ヶ月 (+ 1 年)

区 間		H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	
松江玉造～宍道	計画		8年3ヶ月									
	実績		7年3ヶ月									
宍道～三刀屋木次	計画		8年3ヶ月									
	実績		9年3ヶ月									

事業費

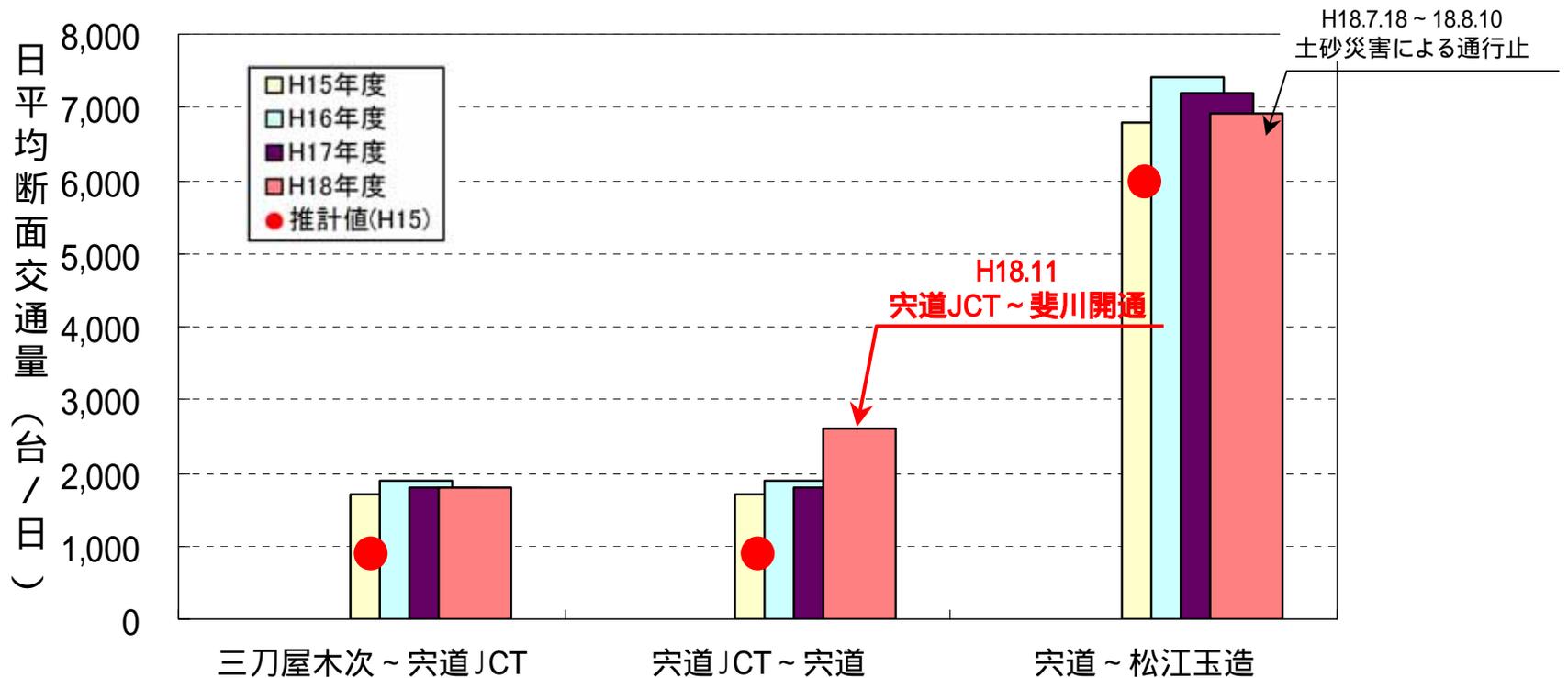
計 画： 9 4 2 億円

実 績： 9 3 1 億円 (1 1 億円)

[3 5 億円 / km]

交通量の推移

三刀屋木次～宍道間は、平成15年度の開通以降、約2,000台/日で推移している。
宍道～松江玉造間は約7,000台/日で推移している。



資料:NEXCO西日本データ

所要時間短縮効果(旅行速度向上)

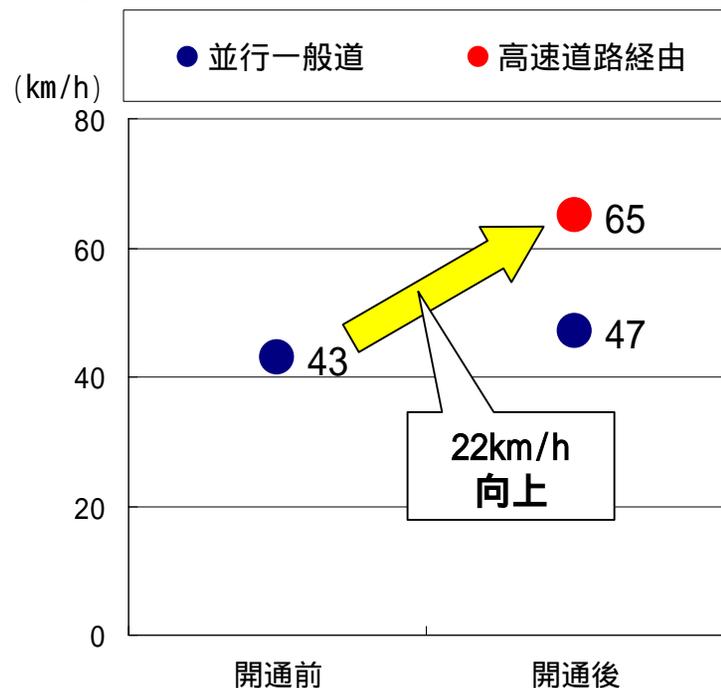
松江市から雲南市までの所要時間は、約15分の時間短縮
(42分 27分)

旅行速度は、22km/h向上(43km/h 65km/h)

また並行する一般国道の旅行速度も4km/h向上



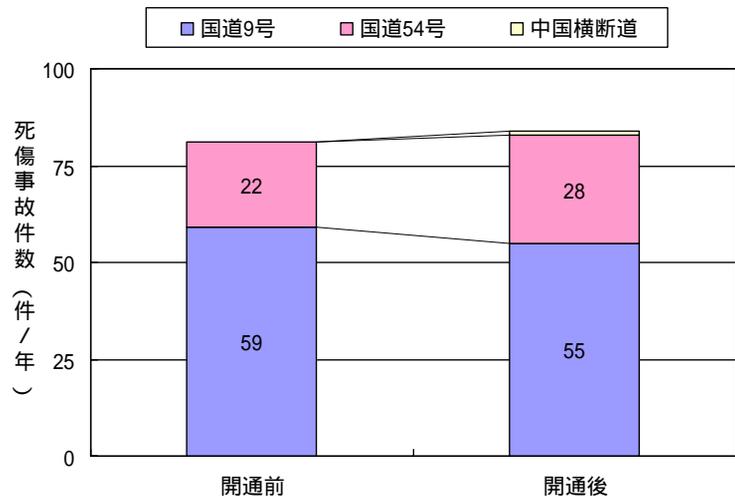
並行する一般国道9号、54号と中国横断道の旅行速度の変化



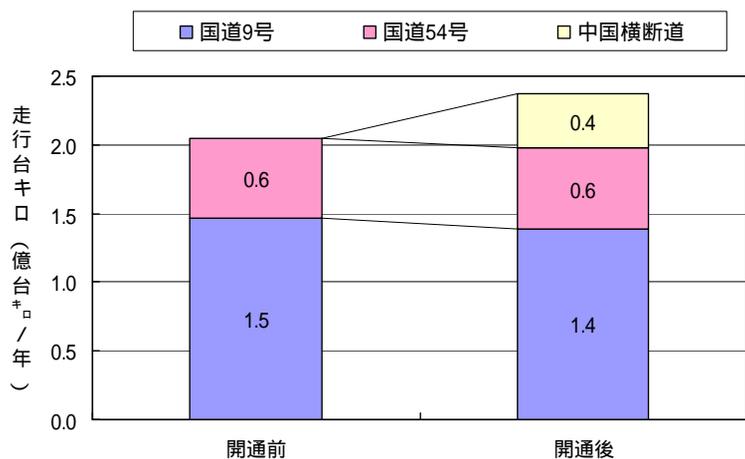
資料: 道路時刻表

交通事故減少

並行する一般国道と高速道路を合わせた死傷事故件数が微増している一方、死傷事故率は約1割減少

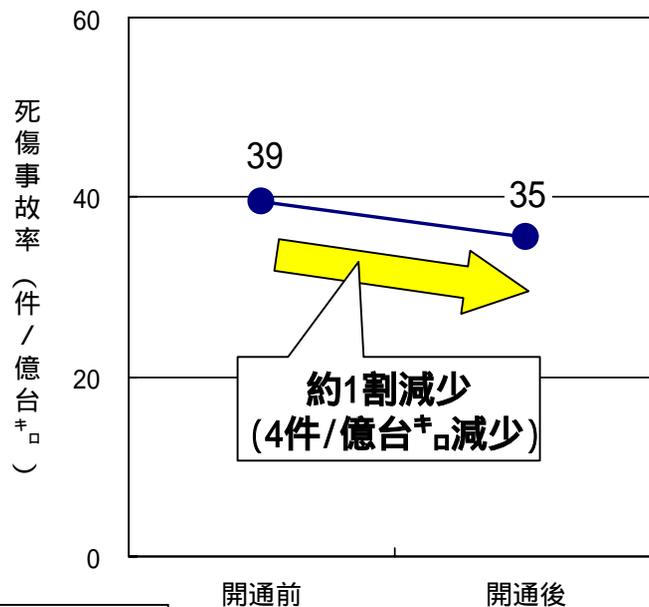


資料: 事故統計データベース



資料: 道路交通センサス

一般国道と高速道路を合わせた死傷事故率 [死傷事故件数 / 交通量]



約1割減少
(4件/億台キロ減少)

開通前: H10~11平均
開通後: H16~17平均

走行台キロとは: 自動車の走行距離の総和
(各区間距離とその区間の交通量を乗じた各区間を足し合わせた総数)

事故件数には区間交通量だけでなく自動車の走行距離による要因も含まれるため、交通量は走行台キロによるものとしている。

費用便益分析結果

費用便益比 (B / C) は、 3 . 4
主に、高速利用による時間短縮便益が大きい

便 益 (現在価値:H19)	走行時間短縮便益	4,464 億円
	走行経費減少便益	340 億円
	交通事故減少便益	132 億円
	計	4,936 億円

費 用 (現在価値:H19)	事業費	1,187 億円
	維持管理費	284 億円
	計	1,471 億円



費用便益比 B / C = 3 . 4

費用便益分析マニュアル(H15.8 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)に基づき算定

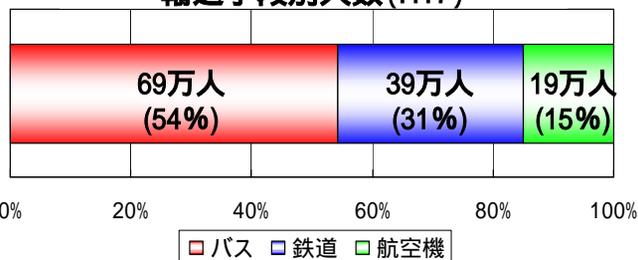
3. 事業の効果(間接効果)

バス路線の利便性向上

島根県発着の公共交通機関における輸送手段別人数ではバスが5割以上
 高速バスの利用者数は増加傾向
 [H12年：42万人 H18：51万人(約1.2倍増)]

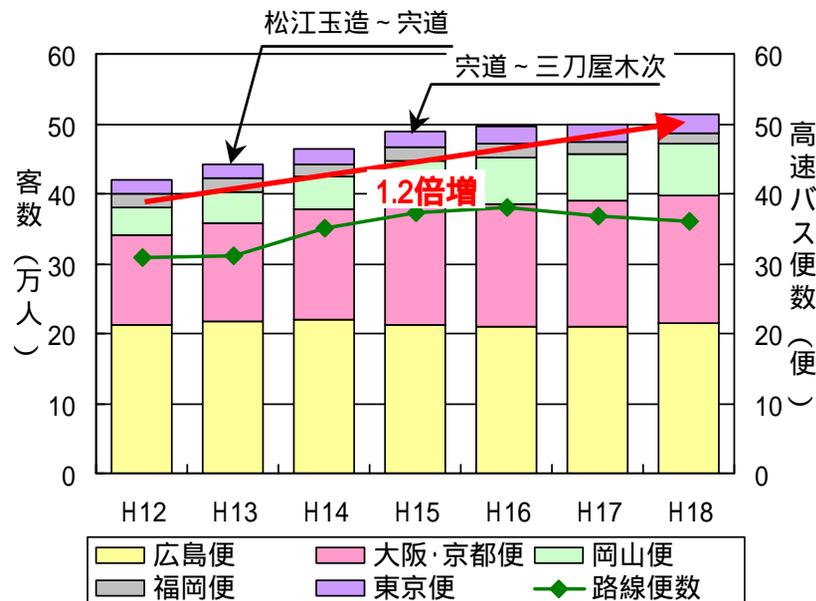


島根県発着の公共交通機関における輸送手段別人数(H17)



資料:高速バス時刻表

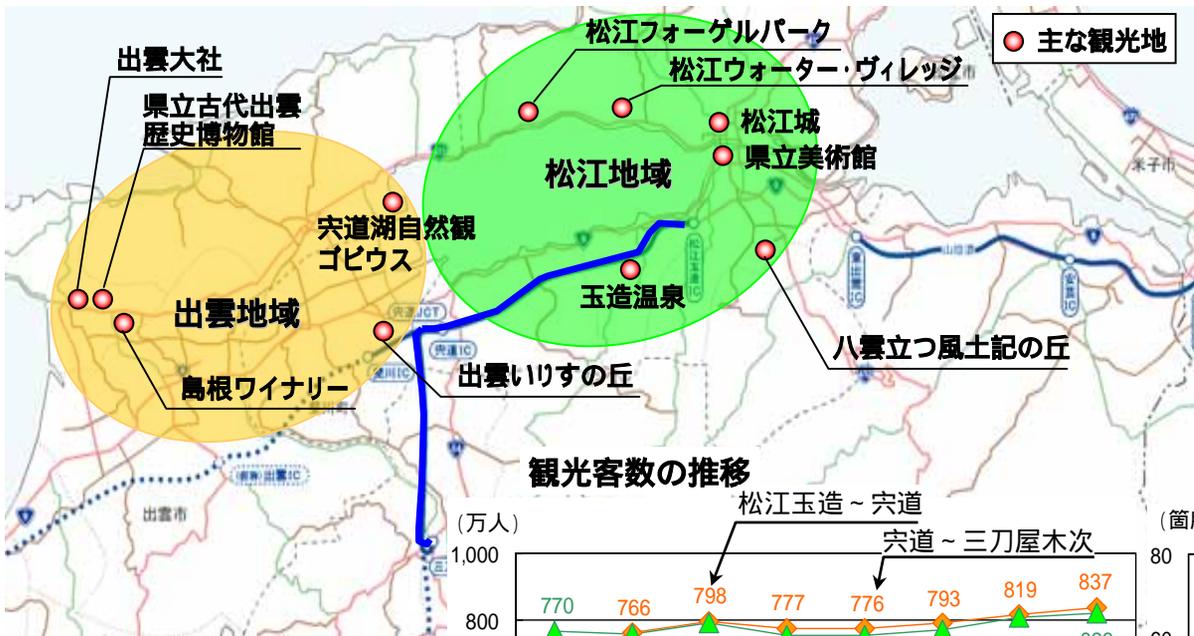
高速バスの利用客数及び便数



資料:一畑バス(株)資料

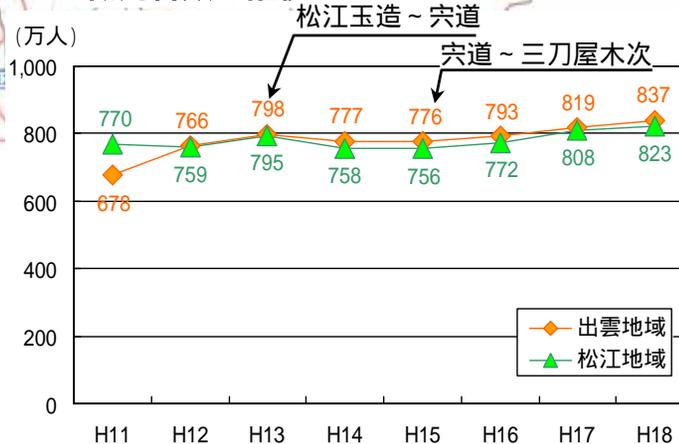
主要観光地へのアクセス向上

松江地域や出雲地域においては観光客数や観光施設数が開通前に比べて増加傾向にある。

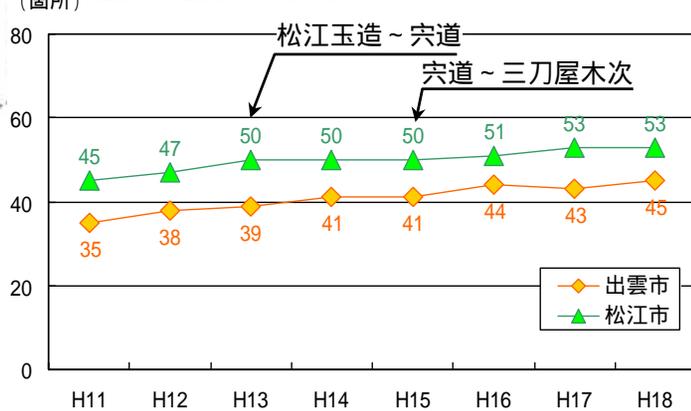


古代出雲歴史博物館 (H19.3.10開館)

観光客数の推移



観光施設数の推移

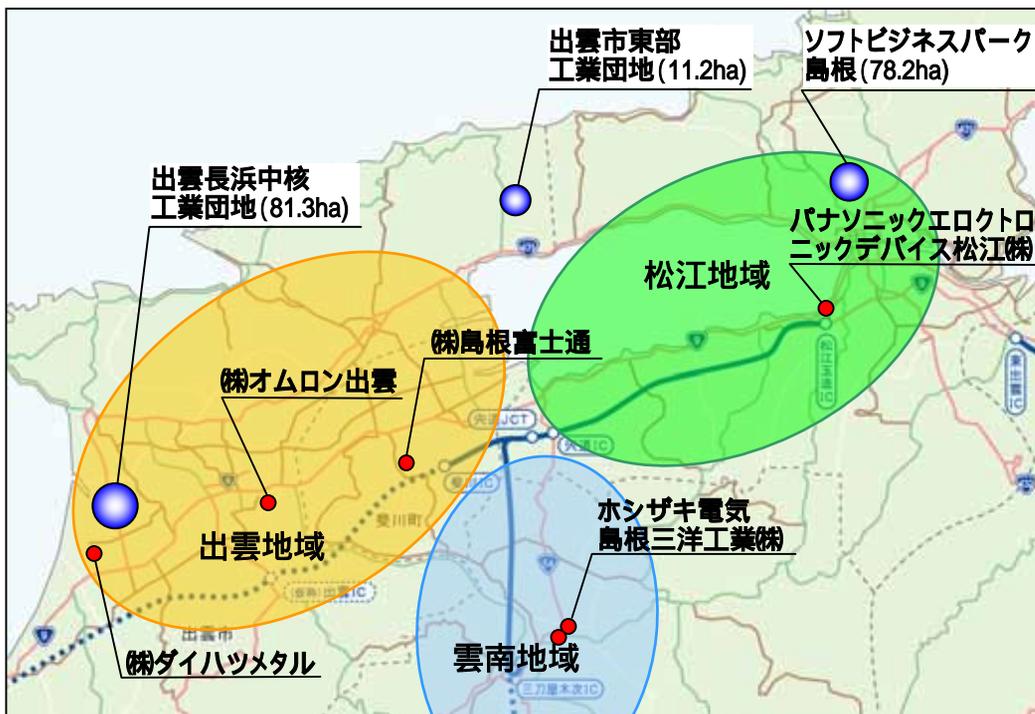


資料: 島根県観光動態調査

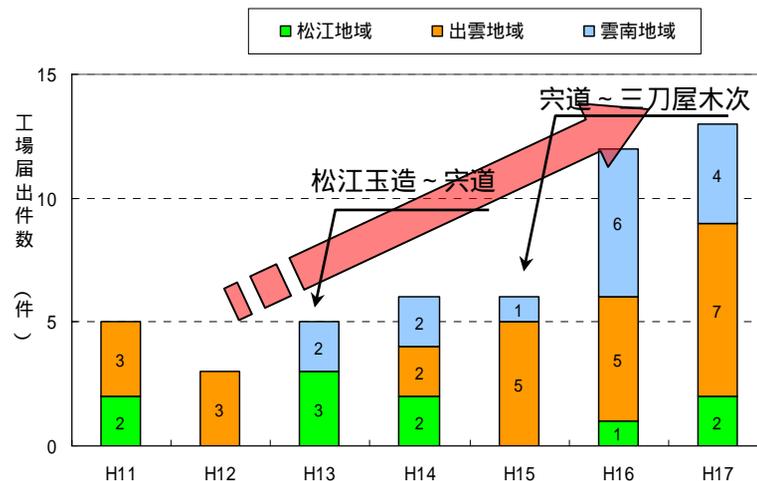
地域活性化の支援

評価対象区間沿道地域における工場立地届出件数が増加した。
最近では雲南地域、出雲地域の届出件数が多い。

工業団地及び主要な工場の立地状況



沿線地域別工場立地届出件数

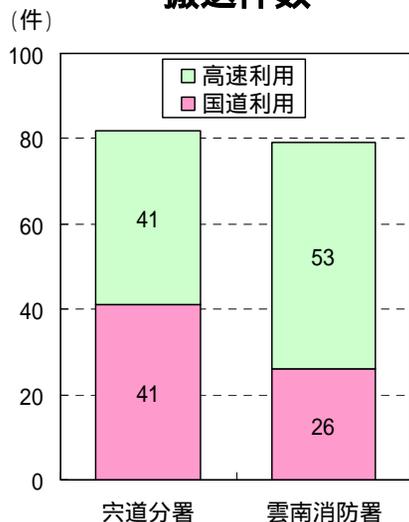


雲南市として企業誘致に力を入れている。誘致説明するにあたり、「空港から近い」、「三刀屋木次ICから分」とPRして誘致を進めています。市町村合併後に、10件以上の企業立地や、増設に成功しています。
(雲南市職員ヒアリング)

救急医療活動の支援

評価対象区間の開通により、三次医療施設までの搬送時間が短縮した。（雲南市 松江赤十字病院で約15分短縮）

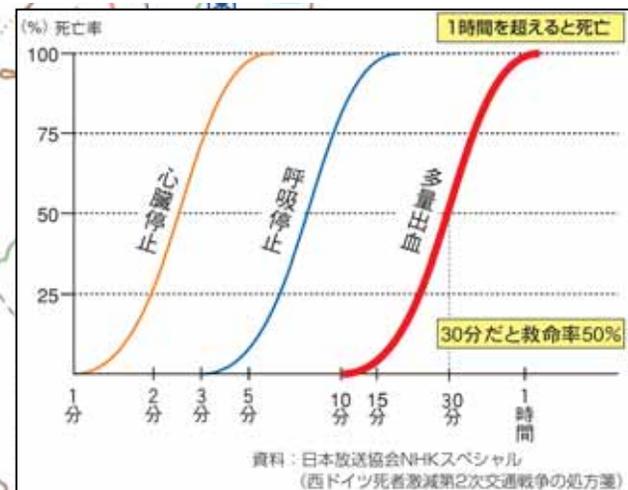
搬送件数



【調査期間】
 宍道分署：H13.3.25～H14.12.31
 雲南消防署：H15.4.1～H16.3.31
 資料：各消防本部ヒアリング

雲南消防署 松江赤十字病院
 開通前：42分 開通後：27分
【約15分短縮】

治療を受けるまでの時間と死亡率の関係



雲南消防署 島根大学医学部附属病院
 開通前：41分 開通後：30分
【約11分短縮】

→ 一般道ルート
 → 高速ルート

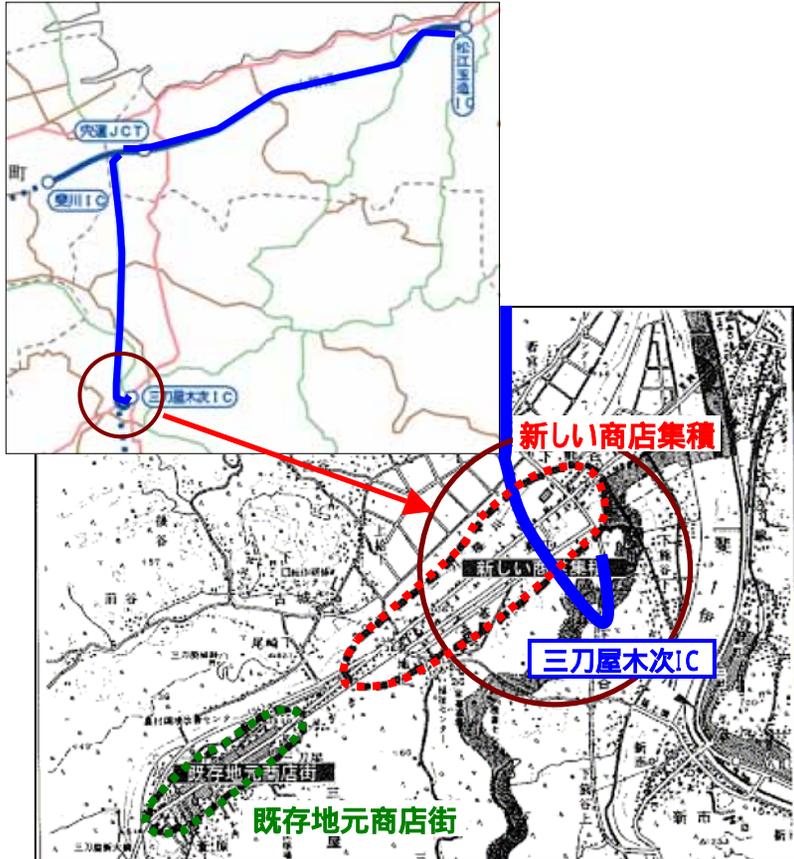
高速道路は信号がなく、道路の路面状態がよいので患者への負担が軽減されています。
 (松江市消防事業本部ヒアリング)

所要時間資料：道路時刻表



高速道路と一体化となった『地域まちづくり』

雲南市では、平成10年度より高速道路整備と連携した地域の拠点機能向上策を推進してきた。
 更に、平成19年度より新たな総合計画を定め、ICを活かしたまちづくり等を推進している。



当初計画（地域活性化基本構想策定）

達成目標	結果
<ul style="list-style-type: none"> ・整備規模：約 59,000m² ・目標年次：H14 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗立地面積：約 53,000m² ・完了年次：H17



三刀屋木次IC周辺の現況

現在の総合計画（雲南市総合計画）

雲南市では、地域資源を活用した交流人口拡大に向け、新たに『雲南市総合計画』を定め、IC周辺の整備、ICを活かした産業振興として花のまちづくり等の取組みを、現在進行中である。

資料：「三刀屋町商店街・商業集積等活性化基本構想策定調査事業報告書」(H11.3)

4. 事業で配慮した事項

景観対策

地域との調和に配慮した景観設計を行った。



穴道湖サービスエリアにおいては穴道湖への眺望に配慮し、施設配置等を工夫



下り線側SAから見える穴道湖



玉造温泉橋

玉造温泉橋は、穴道湖に臨み、また玉造温泉街の玄関口でもあることから、橋梁全体に柔らかいイメージを持たせ、地域との調和を図った

資料:NEXCO西日本資料

文化財保護への取組み

いづものくに ふ ど き

めおといわ

「出雲国風土記」にも登場する女夫岩遺跡を保存するため、道路構造を切土からトンネルに変更した。



女夫岩トンネル(約140m)



女夫岩遺跡

平成8年に島根県と宍道町教育委員会が周辺調査、翌9年に県により史跡に指定



女夫岩トンネルの貫通を祝い鏡開きをする出席者たち
—島根県宍道町白石



平成十三年の開通を自ずから出雲国風土記にも登場。宍道の地名の起源になった「猪(し)」「岩」の有力候補とされ、古代の巨石信仰などを知る貴重な資料として注目されている。同横断道建設に伴い保存の是非が議論され、島根県教委が九年三月に史跡に指定した。

尾道—松江線

女夫岩トンネル貫通

宍道 事業の前進を祝う

平成十三年の開通を自ずから出雲国風土記にも登場。宍道の地名の起源になった「猪(し)」「岩」の有力候補とされ、古代の巨石信仰などを知る貴重な資料として注目されている。同横断道建設に伴い保存の是非が議論され、島根県教委が九年三月に史跡に指定した。

が無事貫通し協力に感謝している。今後も工事の進捗よくに努めたい」とあいさつ、登田知事らとともに鏡開きをして祝った。

女夫岩トンネルは延長約百三十九メートル、工事区間にあった高さ四メートルの巨石二つが並ぶ女夫岩を保存するため、当初計画を変更し総工費約九億円を投じて建設された。

女夫岩は、出雲国風土記にも登場。宍道の地名の起源になった「猪(し)」「岩」の有力候補とされ、古代の巨石信仰などを知る貴重な資料として注目されている。同横断道建設に伴い保存の是非が議論され、島根県教委が九年三月に史跡に指定した。

川島光雅宍道町長は「保存と開発の両立ができ、公団の対応に感謝している。女夫岩周辺の自然を年かしながら、遺跡公園として整備したい」と話していた。

5 . 評価結果及び対応方針(案)

評価結果

直接便益（時間短縮・経費減少・事故減少）を対象とした現時点の費用便益比は3.4である。

対象区間の開通により、

- ・ 広域的な地域を結ぶ高速バスの利便性の向上
- ・ 高速道路に近接する工業団地の企業進出数の増加
- ・ 第三次医療施設までの搬送時間短縮

など様々な効果が発現している。

なお、地域が高速道路を前提として計画、実施してきたまちづくりについて、その進捗状況の把握に努めている。

対応方針(案)

今後の山陰自動車道や中国横断自動車道尾道松江線の延伸開通に伴い、さらに効果が発現されるものと考えられ、

- ・ 高規格ネットワークの早期整備に向けた取組み
- ・ 地域に密着した高速道路利用促進対策の実施

を進めていきたい。